



旧鶴沼川跡の湿原雑木林のはんのみ—西麻生
(昭和42 1.6)



大川扇状地の雑木林四つ塚小松付近の整地前の
景観 (41.11.4撮影)

ると、盆地底の三分の二ほども、この扇状地による堆積ともみられるほどである。

しかし、扇状地地形の最もよく現れ、北会津村全域に広がる扇状地は、やや峡谷を下った岩崎山の弁天山付近を扇頂とするもので、麻生新田、麻生、東麻生、下米塚、東に川を越えて南四合辺を結ぶ、半径六キロぐらいたが最も標式的な扇状地をなしている。この末端付近から湧水がはじまり、さらにその外縁四、五キロほどに湧水地帯が横たわっている。

その下部には円礫層、砂利層が横たわっていて、特に旧鶴沼川、現在の大川の旧河道と思われる扇頂を要とし